あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュース

飯山・ざる菊　（撮影：小林会員）

令和５年 11 月号 Vol. 235
（2023 年）

発行：令和５年 11 月７日

あつぎ観光ボランティアガイド協会
ホームページ　http://atugikanvola.sakura.ne.jp
メールアドレス　atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者　会長　田頭 文昭　　編集担当者　澤田 正弘

≪江戸庶民の大山詣り≫

行事区分：企画ガイド（ハイキング）
日　　時：10 月 27 日（金）９：20～15：30
場　　所：大山
（旧参道～こま参道～女坂～大山寺～阿夫利神社下社～二重滝～阿夫利神社下社）
参 加 者：一般 11 名、会員７名

厚木市内のあちこちから仰ぎ見る事ができる大山。大山の旧参道からこま参道、女坂をゆっくり登り大山寺で昼食。大山寺から阿夫利神社下社までは、安全対策としてケーブルカーで上がる人と歩いていく人に分かれ、阿夫利神社下社で合流。空気が霞んで、相模平野や相模湾の雄大な景色は精彩を欠いたものでしたが、大山の名水や江戸庶民が運んできた大きな木太刀に歓声を上げ、阿夫利神社や江戸時代の大山詣りの解説に耳を傾けて頂きました。

二重の滝は上段の断崖から下段の岩場に流れる美しい滝で暫し撮影タイム。ケーブルカー駅前に戻り、お客様から本日の感想と共に今後の要望を伺い、来年は見晴台から頂上へ行くルートを検討する事としました。80 代半ばの山好きな女性が元気に歩く姿に感銘致しました。会員のガイドに対し、お客様からお褒めの言葉を頂きました。参加された会員のみんなにお礼申し上げます。やったぜ！　（山下潔 記）

阿夫利神社下社

≪関東大震災震生湖誕生 100 周年震生湖周回コース≫

行事区分：「県西観ボラ合同研修交流会」（主催：県西観光ボランティアの会）
日　　時：10 月 18 日（水）9:30～12:30　代表者会議 13:40～15:10
場　　所：秦野市
参 加 者：会員２名

渋沢丘陵から見た大山と丹沢表尾根

秦野駅に着くと今回の合同研修交流会担当の「秦野市観光ボランティアの会」の会員の方が、受付をしてくれました。我々あつぎ観ボラ２名は小田原、綾瀬と同じ１班に配属され、３名の秦野のガイドさんの案内で神奈中バスに乗車し、秦野総合高校前で下車しました。ここをスタートし渋沢丘陵へ。北側を見ると右に大山が見え、さらに左へ二ノ塔、三ノ塔と表丹沢がきれいに見えました。厚木から見る大山とはまた違う景色です。さらに西側を向くと富士山が見えました。

進んでゆくと震生湖に到着しました。以前ゴルフ練習場があった場所は、太陽光発電施設になっていました。近くの地層が見える場所で学芸員の方から地滑りがあった断層の解説がありました。大正 12 年（1923 年）の地震で地滑りが発生し、沢の水がせき止められてこの震生湖が出来たという事でした。

次に訪れた白笹稲荷神社は関東三大稲荷の一つで古くから「お稲荷さん」と親しまれています。この近くに「黄金の泉」がありました。光が「ヒカリモ（光藻）」に反射して水面が黄緑色に輝いていました。最後に訪れた秦野駅近くの今泉名水桜公園は秦野市内で最大の湧水量を誇る大きな池があり、桜の名所でもありました。

午後はＪＡ秦野本町支店ビル内で「代表者会議」がありました。（1）午前中のハイキングの感想（2）次回幹事があつぎ観光ボランティアガイド協会であることの確認（来年秋口に実施し、その後海老名、綾瀬へと続く）（3）その他（ガイド養成、新人育成についての意見交換）があり閉会となりました。今回は誕生 100 年目の震生湖を訪れる事が出来て記念になりました。　（澤田 記）

≪牧野富太郎記念庭園見学≫

行事区分：会員研修
日　　時：10 月 20 日（金）9：30～10：45
場　　所：東京都・練馬区
参 加 者：会員６名

NHK 朝ドラ「らんまん」のモデルになった牧野富太郎博士が、94 歳で亡くなるまでの 31 年間(大正 5 年～昭和 32 年）を過ごしていた牧野記念庭園(練馬区東大泉）を会員 6 名で訪ねました。西武池袋線大泉学園で下車して南口から 5 分程歩くと牧野記念庭園の入口です。博士は文久 2 年（1862）4 月 24 日土佐佐川村（現高知県佐川町）の酒造業の「岸屋」に生まれ、ほぼ独学で植物の知識を身につけ明治 17 年（1884）に東京大学理学部植物学教室への

出入りを許され「牧野日本植物図鑑」を完成しました。博士は「日本の植物学分類学の父」と呼ばれ、昭和 28 年「東京都名誉都民」に、昭和 32 年に「文化勲章」、平成 20 年に「練馬区名誉区民」を受けました。

スヱコザサ

正門をくぐると、庭園には博士が全国各地から集めた植物やコナラ、エゴノキといった武蔵野の雑木林の面影を残すものや、高知県の仙台屋という店の前にあった品種で博士が名づけ親の「さくら・仙台屋」の古木など、博士にゆかりの深い植物を含め３００種類以上の植物が生育しています。庭園のすぐ左奥には博士の胸像があり、その下を「スヱコザサ」が取り巻いています。博士を支えた妻の壽衛（スヱ）さんが昭和３年に 54 歳で亡くなられたときに、永遠の感謝の気持ちを捧げ、発見した新種の笹に「スヱコザサ」と名付けたものです。

庭園の奥右手には「繇條書屋（ようじょうしょおく）」があり、博士の最後の書斎が再現されています。内部は所狭しと書籍の山となっています。「繇條」とは「草や木が生い茂ること」だそうです。右奥の建物は展示場で、博士が愛用していた採取道具や描写道具、博士が執筆した書物や植物図などの貴重な品が展示されています。約１時間程の滞在でしたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。（鈴木 記）

※昼食後に東京大学附属の教育実習施設である「小石川植物園」も見学したそうです。

（編集担当）

≪あつぎ温泉郷ガストロノミーウォーク≫

行事区分：行事支援

日　　時：10 月 28 日（土）９：00～15：00

場　　所：本厚木駅北口～七沢温泉

（夢未市～ぼうさいの丘公園～メルシィ商店～食の市～黄金井酒造～七沢温泉）

参 加 者：会員６名

ぼうさいの丘公園

食事を文化や芸術としてとらえる「ガストロノミー」。和食は日本の文化として評価され、無形文化遺産となり、美しい日本食はまさに芸術となっています。そして今回は、厚木ならではの温泉も含んだガストロノミーウォークです。初めての行事で、厚木の風土が生んだ食とは何か、その歴史とは、という興味と、幅広い年齢層の参加者 60 名が約 10 ㌔を歩くので、少しの心配を持って支援参加をいたしました。

集合時間では少し寒かったのですが、歩き始めるとすぐに熱くなり、第１ポイントの夢見市に到着しジェラートをいただく。次のポイントぼうさいの丘公園では鮎の塩焼き。炭火でふっくらと焼かれた鮎は、とても美味しいと言われました。歩きながら相模川は鮎が釣れると案内をしました。メルシィ商店のハーブウォーターで休憩。お昼は食の市でシロコロと３店舗の豚漬け味比べが入ったお弁当。

後半はお酒と温泉です。黄金井酒造では、土蔵の貯蔵庫の中で昔と今の酒造りの違いの説明を聞き、お客様は興味津々。今は今年の酒の第一回目搾りの最中で、新酒が出来るの

も楽しみになりました。いよいよ試飲、盛升大吟醸等の日本酒、カボス酒等のフルーツ酒の飲み比べです。皆さん飲みます、飲みます。味わいを口にし、お酒の質問をするなど、とても楽しそうな光景でした。その後お酒を購入し、七沢荘と玉川館へのグループに分かれそれぞれの温泉へ向かいました。

日本酒の試飲

観ボラは七沢荘送りまでで最後の感想は聞くことが出来ませんでしたが、帰りのバス停で待つ前班のお客様の顔は、さっぱりとした笑顔を見せてくれ、楽しんでいただけたのだと思いました。

あつぎガストロノミーとして、厚木の食文化、歴史を知ってもらうひとつとして、シロコロは厚木の養豚産業から生まれ、B 級グルメとなった歴史の話をすれば良かったと思いました。

今回の参加者は、ほとんどの方が市外からのお客様で、厚木を食べる、飲む、歩く、温泉と参加の目的もそれぞれでしたが、厚木に興味を持っていただき、また厚木に来て下さることを願います。　（菅谷 記）

会員投稿 ----------

《　厚木の時宗（最終回　一遍上人と厚木の接点）　》　　石川 豊

一遍上人の生涯　（1239～1289　51 歳の生涯）

一遍上人

一遍上人は鎌倉時代中期の僧で時宗の開祖。一遍は房号で、法諱は智真。遊行上人、捨聖（すてひじり）、円照大師とも呼ばれます。延応元年（1239）伊予の名門豪族　河野家通広の次男として誕生しました。河野氏はもと、越智氏と称した豪族です。瀬戸内の水軍を率いて壇ノ浦で平家を追い込み、鎌倉幕府において、勢力を有していました。ところが、承久の乱（1221）で一族のほとんどが朝廷方につき敗れ没落、一遍が生まれた頃は見る影もありませんでした。

10 歳で母を亡くし、父の勧めで天台宗継教寺に出家、13 歳になると、大宰府で、法然上人の孫弟子（聖達）より、浄土宗（西山義）を 10 年以上にわたり学びました。25 歳の時父の死をきっかけに還俗して伊予に帰りますが、32 歳の時、一族の所領争い、人間関係などが原因で再び出家。信濃の善光寺や伊予の窪寺、岩屋、四天王寺（賦算開始）、高野山など各地を転々と修行に励み、熊野本宮証誠殿で熊野権現から神託を受け、「一遍」と称し、時宗の開祖となりました。

一遍上人は全ての人に、広めようと≪遊行（ゆぎょう）≫の旅に出、念仏札配り≪御賦算（ごふさん）≫を通して結縁を勧めさらに、各地を遊行するうち、信濃国佐久で≪踊り念仏≫を始め念仏の歓びを分かちあいました。そして、正応 2 年（1289）摂津兵庫の観音堂（のちの真光寺）において享年 51 歳で入滅されました。一遍上人の死因は過労と栄養失調だったようです。

熊野成道

賦算（ふさん）時の悩みを熊野権現から神託を得て、さらに、阿弥陀信仰の境地を深めたとあります。ここは一遍上人の成道なので、全文を述べます。

融通念仏すゝむる聖、いかに念仏をばあしくすゝめらるゝぞ、御坊のすゝめによりて一切衆生はじめて往生すべきにあらず、阿弥陀仏の十劫正覚に一切衆生の往生は南無阿弥陀仏と必定するところ也、信不信えらばず、淨不淨をきらはず、その札をくばるべし

国宝『一遍聖絵』　第三巻部分　熊野権現に出会う

「融通念仏を勧める僧よ、どうして悪い念仏の進め方をされるのか。あなたの勧めによって、すべての人々が極楽浄土に往生するのではない全ての人々往生できるのは、すでに十劫という遠い昔、阿弥陀仏が法蔵菩薩といっていた時、正しい悟りを得て、南無阿弥陀仏と唱えることによって、極楽往生できると決定しているのだ。従って、信心があろうとなかろうと、こころが清らかであろうとなかろうと、だれ彼の区別なく、念仏札を配って結縁せよ」

一遍上人が念仏勧進を気負い、態度に我執がある、驕慢の心があるよと諭されています。阿弥陀仏がすべての生きとし生けるものは往生すると決まっている、だから、全てにおいて平等に迷わず、札を配りなさいと。

一遍上人の母親は毛利一族？

一遍上人の資料には、「母は大江の娘」というだけで実母の記載はほとんどありませんが諸説存在します。

①北条重時女（「極楽寺多宝塔供養願文」）
②大江季光女（「北条系図」浅羽本）
③葛西殿（「金澤文庫古文書」）
④大江季光女で北条重時養女

②．④の系譜では、大江季光の女の一人が北条時頼に嫁しており、その子が時宗であるから一遍と時宗は母方の従兄弟に当たるということです。（川添昭二『北条時宗』）
母については、『一遍上人年譜略』に「母ハ大江氏」と伝えるだけである。大江氏は鎌倉幕府の有力な御家人で、もとは京都の学問の家系であり、一遍の母と伝える女性は大江季光の娘ともみられる。
生母が大江広元の四男、毛利季光の娘説ならば、厚木は一遍上人の母親の実家であるとも言えます。
一遍上人が毛利荘（相模愛甲）近くの依知で滞在、参篭（瑠璃光寺）、祈ったのは修行中とはいえ、一遍上人はまだ 23 歳。10 歳で母親と死別、無常の理を悟りました。実母の里が心の拠り所だったのかもしれません。
母親の死は、実家、毛利季光自害（宝治合戦）の心痛もあったかもしれません？
文永８年（1271）迄の８年間聖絵は白紙状態なので、在俗生活がわからないとのことですが麻山集を信じるとすれば、一遍が依知に滞在したのは、実母の系譜（大江氏と毛利荘）からも納得できます。しかし、一遍上人が依知を訪れたのは、建長元年（1261）。毛利季光一族は宝治合戦（1247）で敗れて毛利荘はすでに、北条の所領？になっていたと言われています。

河野家内部で所領争いがあり、一遍も巻き込まれ、京都で暗殺されかけ、奥州に向かったその後、実母（大江一族の娘）の里、相模国愛甲（現厚木市）に現れ、この天台宗、瑠璃光寺に滞在していたと言われている。

「麻山集」

一遍上人と依知の諸説？

相模川の対岸には依知と呼ばれる地名がある。依知（越智）は四国の豪族河野水軍の一族の姓であると考えられ、河野一族で一遍上人にゆかりのある者が、伊予からやって来てこの付近に在住したと考えられる。当麻の地も後の世に管理的な立場になる、関山（第一回目で説明）、落合氏などは、この伊予からやってきた子孫と考えられている。
相模原情報発信基地（相模原）

依知郷領主本間重連の一族として依知直重の名がある。
本間氏城跡に建つ妙伝寺の寺伝に重連の弟として、三郎左衛門直重が登場、又、越智三郎左衛門直重の名が見られる文献もある。本間氏がそれに準ずる依知氏ないしは越智氏が城館を構えていた土地と思われる。　上依知村誌略

この「依知」は「越智」のことで、一遍上人の一族越智に発する本間氏の郎党、越智三郎左衛門尉直重である。　厚木市歴史点描

依知に似て“越智”の姓がみられ、依知の三郎左衛門直重は依知に居住の越智三郎左衛門を指したようで、一遍上人は越智氏の流れで依知三郎にも同族(越智)がいたのではないかと？

終わりに

私が投稿しようと思ったのは、瑠璃光寺さんと縁があったことですが、「なぜ、一遍上人が依知に来て祈っていたのか」という素朴な疑問でした。時宗、一遍上人については、ほとんど知りませんでした。そして、厚木と接点はあったのだろうか？調べていくと、さ

すがに奥深く、また諸説あり、真実は分からない事が多いと感じました。ただ、自分なりに一遍上人の人間像、思想が少しは理解できたことが喜びとなりました。

一遍上人は非常に人間愛があったと思います。しかし、一遍上人は財産、家族、名声一切全て捨てる、悩むことも捨てる「捨て聖」の深意「人を愛することは我執を全て捨て去る、“捨ててこそ”真の幸せになる、仏に身も心もまかせること」と言っています。
そして、絶対の平等。「信不信を選ばず、淨不淨を嫌わず」に表されている、どんな人、乞食であろうが、ハンセン病（当時もっとも忌避された）でも、全てを平等精神で救済する。どの様な人であっても「南無阿弥陀仏」と唱えることで、阿弥陀仏と時間を超え一体となり極楽浄土に行けると。

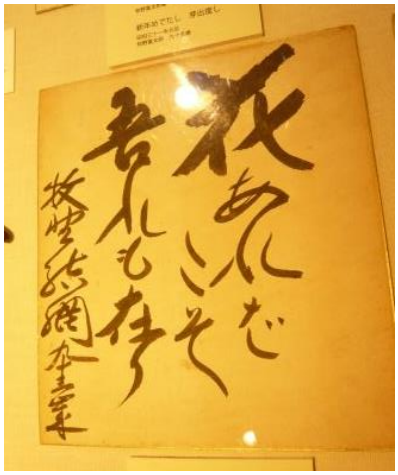
最後ですが、実母が毛利の娘という説と“依知”は“越智”であって、一遍上人の河野一族とゆかりのある地であるという説についても真実は分かりませんが一遍上人と厚木とのひとつのロマン、接点があったと信じます。

私は一遍上人が毛利の地を向いて一心に祈っていた姿が浮かびます。　　（完）

牧野富太郎記念庭園 写真集

博士夫妻

東京帝国大学時代の名刺



“花あればこそ吾れも在り”
博士 93 歳の色紙

博士の採収道具類

書斎内部

最　近　の　活　動

日　　付	場　　所	内　　容	参　加　者
10月　10日	睦合西公民館	創立20周年記念誌編集委員会#6	会員　　5名
10月　14日	アミューあつぎ	定　例　会	会員　24名
10月　14日	アミューあつぎ	検討会（定点ガイドについて）	会員　16名
10月　16日	大山	企画ガイド下見 ハイキング「江戸庶民の大山詣り」	会員　　7名
10月　18日	秦野市	県西観ボラ「合同研修交流会」	会員　　2名
10月　19日	相川公民館	創立20周年記念誌編集委員会#7	会員　　4名
10月　20日	東京都練馬区	牧野富太郎記念庭園見学	会員　　6名
10月　21日	本厚木駅～ 七沢温泉	行事支援の下見 「ガストロノミーウォーク」	会員　　3名
10月　23日	荻野公民館	企画ガイドの資料読合わせ 「厚木の巡礼道を辿る」	会員　　7名
10月　27日	大山	企画ガイド ハイキング「江戸庶民の大山詣り」	会員　　7名
10月　28日	本厚木駅～ 七沢温泉	行事支援 「ガストロノミーウォーク」	会員　　6名
10月　30日	アミューあつぎ	厚木市観光振興推進委員会	会員　　1名
11月　2日	宮の里第三集会場	編集会議	会員　　3名

編集後記

庭のミカンが緑色のカメムシに吸われて、40個程落下してしまいました。夏の気温上昇によりカメムシが全国的に大量発生して、農家では果物（柿、梨、リンゴ、ミカン）さらには米も被害を受けたそうです。

９月号から続いた会員投稿「厚木の時宗」は11月号で完結となりました。長文となりましたが一遍上人と時宗について学び、今後のガイドに活かしていただければと思います。

編集委員　阿部 啓冊　小林 直樹　澤田 正弘